

イベント内容	開催日(参加人数)	炊き出しメニュー	達人コースの活動
第1回「田植え」 サツマイモ・大豆・落花生の苗植え 田楽奉納「津軽三味線」(大高さん親子)	5月27日(130名) 谷津田周辺の自然観察	・葡ご飯 ・煮物(フキ) ・ちゃんこ風鶏団子汁 ・天ぷら(レンコンなど) ・目玉焼き	6/10 一の草 7/8 二の草 7/15 大豆種まき 8/20 大豆の土寄せ 9/30 リッツオウ作り
第2回「草取り&ホテル観賞」 「オカリナアートJOY」ミニコンサート ザリガニ取り 案山子作り 夜の谷津田散策・ホテル観賞	7月29日(140名) 自然観察、畑の草取り 「谷津田の自然」学習会	・おにぎり ・汁物 ・煮物 ・枝豆 ・から揚げ ・目玉焼き ・スイカ、トマトなど	10/21 オダの準備 10/22 大豆の収穫(1) 11/3 大豆の収穫(2) 11/23 井戸掘り準備 11/26 井戸掘り 12/9 リッツオウ作り・縄ない
第3回「稲刈り&収穫祭」 茨城県指定重要無形文化財「青屋轆子連」のお囃子 サツマイモ・落花生の収穫 餅つき ザリガニ取り	10月28日(140名)	・おにぎり ・汁物 ・煮物 ・天ぷら ・目玉焼き	12/16 堆肥づくり 1/27 一日蔵人(1) 1/28 一日きり 2/3 一日蔵人(2) 堆肥の管理 2/24 炭焼き 3/3 炭の窯出し・作業小屋づくり 3/18 きのご原木作り
「脱穀イベント」 ガーコン(足踏み式脱穀機)・ハーベスタ(自走式自動脱穀機)体験 唐箕(とうみ)によるふるい体験 焼き芋	11月11日(70名)	・ご飯 ・汁物 ・煮物 ・焼き芋 ・きなこ、あんこ餅	
「井戸掘りイベント」 井戸掘り道具の組立 餅まき 「上総掘り:重要無形民俗文化財」体験	11月25日(130名) 井戸掘りは11月22日~29日(8日間)	・ご飯 ・汁物 ・煮物 ・焼き芋 ・しんこ餅	
第4回「酒仕込み神事&味噌作り」 「神事・お祝いの儀」見学 酒蔵見学、試飲会 七草がゆ作り 味噌作り 竹細工 わら細工 餅つき、ならせ餅作り	1月13日(140名)	・NEC田んぼ新米 ・七草がゆ ・小豆がゆ ・汁物 ・煮物 ・たくあん	
第5回「新酒蔵出し」 ラベル貼り・小冊子掛け 酒蔵見学、試飲会 竹細工 谷津田の生物観察 落ち葉かき、里山整備 焼き芋 田んぼ資料展示会	3月10日(130名)	・NEC田んぼ新米 ・粕汁 ・煮物 ・たくあん ・目玉焼き ・しんこ餅 ・焼き芋	
参加者合計 1,100名 (スタッフ、達人コースを含む)			

谷津田の一年



NEC田んぼ作りプロジェクト with アサザ基金 2006年度活動報告書



3年目の活動を終えて

「本当にみんな田植えに来てくれるの?」と心配しながらスタートした本プロジェクトも、3年目の活動が終了し、4回目の田植えを迎えようとしています。最初の心配もどこかへ吹き飛び、申し込み開始3日で満員御礼になるほどの人気イベントとなりました。社内での認知度も高まり、この3年間に累計2,700名もの社員、家族、スタッフが活動に参加してくださいました。

3年間は、自然の営みの中ではほんの短い時間ですが、自然は、私たちの活動に答えるかのように見事な変化を見せてくれました。荒れた谷津田がよみがえるとともに、カエルやトンボなど多くの生き物たちが当たり前のように姿を見せてくれるようになりました。土の中で眠っていたさまざまな植物の種子も芽を出し、専門家も驚くほどの生き物の宝庫となりました。(おかげでやりがいのある草取りになりました。)

同時に自然は参加者にいろいろなお話を教えてくれました。市街地に近い場所でも、自然は驚くほど豊かで、生き物たちがたくましく生きていくこと、そこに人が少し手を加えることで生き物たちがさらに暮らしやすくなること、多くの生き物が複雑な生態系を形作り、それに守られて種が育っているということ、などなど。また、春になると新しい命が息吹き、谷津田をめぐる営みが毎年繰り返されることを改めて意識し、この活動をこれからもずっと当たり前のように続けていかなければならないと思いを強くしました。

NECは、社員および家族を含めた環境意識啓発の実践の場として、2004年度よりNPO法人アサザ基金殿が推進している「谷津田再生事業」との協業を行っています。2006年度は累計約1100名のNECグループ社員及びその家族が参加し、田植えから収穫米を使った日本酒造りまでを体験しました。参加者が年間活動を通して自然に触れ、感じたことや考えたことなどを、より多くの人にお伝えするために、活動内容を報告書にまとめました。ぜひ、ご一読いただき、皆様への取り組みの一助となれば幸いです。

2007年4月 NEC田んぼ作りプロジェクト事務局

田んぼに集まった人たちは、自然を満喫し収穫の喜びを分かち合いました。そして意識も変わりました。「近所の田んぼや自然を意識して見るようになった」、「日々食べているお米や野菜が、多くの人の苦勞のおかげだということ改めて認識した」、「他のボランティア活動にも参加するようになった」など、たくさんうれしい声が届きました。きっと、毎日の仕事や日常生活にも少しずつ変化が現れてくることでしょう。

活動に参加した多くの子どもたちも、この3年間でみんな大きく成長しました。最初は見ていただけだった子どもたちも、泥の中に入れなかった子どもたちも、今では自分にできる仕事を見つけて出し、大人に交じって誇らしげに働いています。3年間の活動記録は、そのままとともに成長記録となりました。仲間も増えました。真夏の草刈りにも汗を流した仲間たち、イベント終了後も稲刈りまでやり終えた仲間たち、達人コースに毎回笑顔で集まって作業に精を出す仲間たち。仕事の垣根を越えて、たくさん仲間たちに出会うことができました。そして最後はやはりお酒です。単なる「お酒が好き」を超えた熱い思いのこもったお酒です。これからも多くの人とともに汗を流し、お酒を飲み交わし、感動を伝えていきたいと思ひます。

田んぼ作りプロジェクトについて

主旨と目的

NECグループは「NEC環境経営ビジョン2010」の中で、環境と調和した持続可能な事業体への変革を目指して、「全社員がエコ・エクセレンス(環境に関する知識も有し、日常的に環境に配慮した行動がとれる意識の高い人材)になる」ことを掲げています。

その一環として、NEC社員および家族を含めた環境意識啓発実践の場を提供するために、2004年度よりNPO法人アサザ基金殿が霞ヶ浦流域で展開されている「水源地保全・谷津田再生事業」との協業を開始しました。これは、一年を通して自然体験プログラムを提供するとともに、NECの製品や技術を活用した「ネットワークセンサー」をキー・コンポーネントとする環境モニタリングシステムの開発も意図したプロジェクトです。

本プロジェクトでは、家族の方々を含めた参加者全員が自然と触れ合い、そのたくましさやばらさを実感し、そして収穫の喜びを分かち合うことができます。そのような体験を通して「モノ作り」の原点に触れることが、持続可能な社会創りに向けたNECグループ環境経営の推進力強化につながるものと確信しています。

さらには、アサザ基金殿の「100年後にトキが舞う霞ヶ浦」を目指した活動の一翼を担いたいという思いを持ってプロジェクトを推進しています。かつて豊かな自然と人々の生活が共存する場所であった谷津田や里山を保全し、また地域の方々との交流を通して、地元で育まれてきた自然と共存する文化や伝統にも親しむことによって、地域の活性化と一体化した活動のモデルとなり、その輪を全国に広げていくことを目指しています。

今年度の活動概要

今年度は、昨年と同じA~Jの10枚の田んぼ(約4反4畝=4,400m²)と隣接する畑で、さまざまな活動を行いました。1年間の活動で累計約1,100名の社員、家族、スタッフが参加し、米作り体験に加えて、サツマイモや大豆などの苗植えや収穫、旬の味覚体験、生き物観察、さらにはお味噌作りなどを楽しみました。

そして、今年も参加者の思いのこもったお酒「愛町で笑呼」が白菊酒造(株)殿の手によって立派に出来上がりしました。今回は、お酒作りに興味のある人が一日蔵人として参加し、お酒への思いもよりいっそう強くなりました。

さらには、今回よりスタートした達人プログラムにより、田んぼの草取りから堆肥作り、一日きりでの里山管理や炭焼きなど、多くのことを学びました。また特別イベントとして、上総掘りによる井戸掘りに挑戦し、伝統の技に触れることができました。このようにさらに充実した年間プログラムを通して、環境への意識を一層高めてもらうことができました。



ご協力いただいた方々からのメッセージ

NPO法人アサザ基金 不思議なものです。谷津田で作業しているNECの皆さんの姿を見てると、風景にすっかりとけ込んでいて、いい感じでひびいています。すっかり里山の一員になったような参加者の皆さんの笑顔が、田んぼプロジェクトの一番の成果でしょうか。そして、ここを訪れる子ども達の成長ぶりには目を見張るものがあります。最初はいつも親子で行動していた子ども達も、最近子ども達だけのグループをつくり、里山探検をしているようです。みんなで再生した谷津田には、オニヤンマの群飛やホタルの光の舞が蘇りましたが、かつて里山に生息していたガキ大将も帰ってきました。自然と人間が共存する里山の文化が、新しい形で蘇りつつあります。現代の「ひなびる」は、豊かな感性を取り戻すという意味がもれませんが、「NECのひなびる」は、きっと新しい何かを生み出すでしょう。

白菊酒造(株) 田んぼ作りプロジェクトも3年を終え、北の入の谷津田もNECの社員らの手により、自然に再生できていることを実感しています。今年は暖冬で酒造りに多少影響が出ました。モロミが順調に発酵しなくて苦労しましたが北ノ入の達人(達人コース参加者)によって洗米作業や酒仕込みを体験して頂いたお陰で質の高いお酒が出来ました。今年は念願の井戸を掘るなど田植えから酒造りまで年間を通したプログラムとして充実した内容だったと思います。また、NPOと企業が協力し取り組んでいるこの自然再生事業が先進的な事例として、地元の企業としても環境省からインタビューを受けるなど、この活動により多くの人に関心を持ち始めています。プロジェクトは始まったばかり「100年かけて実現していくプロジェクトである」というコンセプトを関係者が互いに強く認識した上で、それぞれの立場で継続のための努力をしていくことが重要と考えています。

(株)小倉味噌店 今年も谷津田再生事業に参加させて頂き、2回目のお味噌教室のイベントをさせて頂きました。実際に大豆を煮て手こ大豆と麹を混ぜるといった、「目で見て」、「鼻で匂い」、「手で感触を感じ」、参加して頂いた皆さまに感動と興奮を体験して頂けたと思います。今年も田んぼ作りなどのイベントを通し自然と人とのかかわり、家族のふれあいの大切さを感じ、その輪が広がるこの事業にまた参加したいと思ひました。

「愛町で笑呼」の活用



佐々木会長を始め、幹部によるお客様への贈呈やNEC主催の囲碁大会、軽井沢72ゴルフトーナメント、支社のイベント等を通じて「愛町で笑呼」をお客様に楽しんで頂いています。

社員の環境意識啓発活動によって作られた純米原酒は大変評判がよく、プロジェクトの取組に対する評価と共にお褒めの言葉も多く頂いています。

広報関係

- TV放映: 3件 2006.11.29 NHK水戸
2006.12.05 NHK首都圏: ニュース内で井戸掘りの様子を紹介
2007.01.13 NHK水戸: ニュース内で酒仕込み神事の様子を紹介
- ラジオ放送: 2件 2006.11.25 茨城ラジオ: 井戸掘りイベントの様子を谷津田から生放送
2007.01.26 TBSラジオ: 第10期環境キャンペーン特別番組にて紹介
- 雑誌掲載: 6件 日経エコロジー1月号、科学2月号、ビッグイシュー第64号、他
- 本掲載: 2件 地域と環境がよみがえる 水田再生: 家の光協会
いきものがたり: ダイアモンド社
- 新聞掲載: 12件 読売新聞、朝日新聞、東京新聞、茨城新聞、日本情報産業新聞、他
- 社内掲載: 4件 DASHBOARD、佐々木会長講演録(社内Web)、NECライフ(社内誌)

子ども達からのお便り



私が20歳になったら、NECの田んぼで働きたい。それはとても大変だと思う。でも、私たちが大勢で頑張れば、きっと続けられるし成功できる。そして、私は沢山の人を集めて、私たちが食べたりお酒を飲めるように沢山の米をつくることに成功させたい。そして私は有名になるぞ。私は、世界中で一番素敵な田んぼをつくりたい。だから矢野さん、私を助けてね。ずっと。(花菜ちゃん 6歳)

ホテル観賞していた時に「ぶあ〜っ」と、私の手の平に飛んできてくれたのです。その飛んできた虫を見てみたら、とっても小さくて黄色に「ピカピカ」きれいに光っていました。「どんなにかい生き物でも命を大切にしてください毎日毎日一生懸命働いてる。」と、改めて思いました。(由佳ちゃん 12歳)

夏の草取りで、虫やヤゴを見つけ、さわることができたのがとても楽しかった。お昼ご飯も大きな目玉焼きや、てんぷらがとてもおいしかったです。(佳那子ちゃん 10歳)

ぼくは田んぼに行ったら、大きな木の上にかブトシを見つけました。大きさは54~74mmでした。とんでるところがかっこよかったです。(孝一くん 10歳)

参加者からのメッセージ

泥にまみれて一生懸命、虫やカエルを追い回している姿がイキイキとしていて、本当に来て良かったなとおもいました。

3年連続の参加ですが、自然を相手にしているので同じ状態の時は一度もありません。毎回いろいろ発見がありとても楽しみにしています。

父親、子供と3代で参加させて頂きました。貴重な体験ができ、それぞれが楽しめました。田んぼの中には色々な虫がたくさん居て子供が大喜びでした。

田植えから参加していますが、その度に子供から「楽しかった」、「何々を見た」という言葉が良く出ています。

地元の人たちが協力してくれたことを知り、地元の人たちにも私たちのイベントを喜んでもらえていることが分かりとてもうれしく思いました。去年は、珍しいイベントというだけで参加してましたが、今年はこの活動の意義を感じることができました。

生物調査や自然散策など、より一層NEC田んぼのことを知るためのプログラムにも多くの関心を寄せて頂いています。

ボランティアスタッフからのメッセージ

今年度はボランティアスタッフとして事前準備や当日の運営に参加しました。長靴履いてカゴ持って「歩く植物図鑑」のようなアサザ基金スタッフと一緒に、谷津田へ翌日の炊き出し用の山菜を摘みに出かけ、植物の名前を覚えて貰ったり、白菊酒造の廣瀬専務直々に酒瓶包装のやり方を教わったり、裏方ならではの雑学を蓄える場になっています。通年参加してみるといかに農村が優れた循環型社会であったか実感できます。わら、オダ、精米後の米粉、ぬか、酒を絞った後の酒粕等、捨てるものは何一つありません。家の近所の雑木林や竹林を見ると無性に手入れしてあげたくなるのは何故でしょう?《NEC田んぼ作りプロジェクト》での体験は人も再生させると、しみじみ感じています。

日本電気株式会社
〒108-8001 東京都港区芝五丁目7番1号
発行:2007年4月
お問い合わせ先: CSR推進本部 環境推進部
E-mail: info@eco.jp.nec.com
TEL: (03) 3798-6617(ダイヤルイン)
FAX: (03) 3798-9186
ホームページ http://www.nec.co.jp/eco/ja/tanbo

NEC田んぼ作りプロジェクトメンバー
宇塚、山辺、上間、白石、大森、松下、草間
ご協力頂いているボランティアスタッフ
山田、今泉、今、南、小林、藤本 皆さま、ご協力ありがとうございました!

事務局より
田んぼ作りプロジェクトの活動も3年目を無事終えることができました。回を重ねる毎に新規の参加者の方も増え、この活動の環が広がっていることを実感しています。3年間で参加頂いた社員・ご家族は、延べ2,700名を超えました。ご協力に感謝申し上げます。4年目となる2007年度も、気軽に楽しく参加出来る「自然体験型」イベントをさらに充実させ、NECグループの環境意識向上に努めてまいります。本活動を温かく見守っていただきますようお願いいたします。

本紙中の文章、写真、イラスト、ロゴ等の無断使用、転載を禁じます。



田植え 5月27日(土) 曇り 参加者：約130名（平均気温17.9、平均風速1.0m/s）

今年最初のイベントもたくさんの方が集まり、大人も子供も足を取られながらの楽しい田植えとなりました。3日目ともなると達人なみの方も増えて、約30,000株の「日本晴」の苗を予定よりもかなり早く植え終わりました。A・B田んぼでは、昨年に引き続いて不耕起栽培を行い、土に穴を開けて苗を植え込むという、少し労力の要る田植えも順調に終えることができました。田んぼの片隅では、子供たちが水遊びならぬ泥んこ遊びに夢中になり、楽しく元気に遊ぶ子供達の笑い声が谷津田に響いていました。

昼食時には、恒例行事となった大高さん親子の津軽三味線による田楽奉納にみんな聞きほれ、白菊酒造さんによるお酒の試飲販売も、小倉味噌店さんによるお味噌販売も例年通りの人気でした。午後は、畑でサツマイモ、落花生、大豆などの苗植えと谷津田の散策も行いました。今年も田んぼの名前を募集し、参加者からの投票により楽しい名前が決まりました。

草取りとホテル鑑賞会 7月29日(土) 曇り 参加者：約140名（平均気温24.8、平均風速2.7m/s）

季節が変わり、田んぼの稲は大きく成長しています。んん・・よく見ると、雑草も負けずに成長していました。今回は、抜いた草を埋め戻すという達人技(?)にも挑戦しつつ、大人も子供も泥んこになって、草取りを行いました。お昼は、冷えたトマト、キュウリをまるかじりです。作業の後に野外で食べる食事は格別です。食後は地元の方の奏でるオカリナを聞きながらうたた寝、心地よい風が通りすぎていきました。

午後は、生物調査、凧山子作りなどの思い思いのイベントに参加。午後の勉強会後はお待ちかねの虫鑑賞です。田んぼ周辺の散策後、真っ暗なあぜ道を伝って順番に一番奥の田んぼのそのまた奥へ。いきました!ゆらゆらと舞う蛍たちとの感激のご対面です。蛍たちがオカリナの伴奏で踊っているようにも見えました。夜まで田んぼで過ごした長ーい一日でしたが、夏休みのいい思い出になりました。

稲刈り 10月28日(土) 晴れ後うす曇り 参加者：約140名（平均気温14.9、平均風速0.4m/s）

昨年とはうって変わって、晴天の収穫日となりました。今年は日照不足の影響で、成長が1週間ほど遅れていましたが、そんな心配をよそに稲穂は重そうに頭を垂れています。AからJまでの10枚の田んぼに分かれて、一斉に稲刈りを行いました。刈り進めていくと、パツパや蛙がたくさん逃げ出し、田んぼにはいろいろな生き物が住んでいることを実感します。今年は稲穂が重いのか、あちこちの田んぼで稲束をかけたオダが倒れましたが、時間どおり稲刈りを終えることができました。また昨年と同様に、畑でもサツマイモや落花生の収穫を行いました。お昼は、地元産のレンコンや味噌、野草のテンブラなどが出され、さらに、地元の無形文化財のお雛子が収穫祭を盛り上げてくれました。

脱穀 11月11日(土) 曇りのち雨 参加者：70名（平均気温14.2、平均風速0.4m/s、降水量9.9mm）

その日は、朝から雲の多い天気。早く初取りをしたいと、それでも脱穀行事を敢行です。子ども約20人を含む70人ほどの有志で脱穀に取りかかりました。だが、なんと無情にも開始すべく、雨脚が急に強まり、雷も……。残念ながら、脱穀はやむなく中止です。テーマを「雨の日の農作業」に切り替え、リッツオウ(稲を束ねるわらひも)作り、わらない(わらぬ)作り、畑で収穫した味噌作り用の大豆選別などなど。「雨の日の農作業」もこれはこれで参加者には農家の生活の知恵を実感するまたとない体験になりました。

翌々日の13日にはお天気にも恵まれ、雨に濡れた稲も乾き、無事脱穀を終えて約1,700kgの初を収穫できました。

酒仕込み神事 1月13日(土) 晴れのちうす曇り 参加者：70名（平均気温2.6、平均風速0.4m/s）

白菊酒造にて地元の香取神社の宮司さんによる酒仕込み神事が行われました。「荒れた田んぼを耕して、水を育み、生き物たちがよみがえる・・・」ひんやりとした酒蔵に、宮司さんが読み上げる祝詞(のりと)が響き渡ります。一年間の田んぼでのいろいろな出来事に思いを馳せながら、玉串をささげて仕込みの安全と醸造の成功を祈願しました。その後、「洗米」、「麹作り」、「仕込み」、「酒絞り」などの酒作り工程を見学し、新酒の試飲もさせていただきました。昼食には、田んぼの近くで採ったせり、ナズナ、ハコベラなどの春の七草の入った七草粥と小豆粥という地元の正月の伝統的な食事を楽しみました。午後からは、冬の谷津田散策や竹細工・わら細工などのほか、小さく丸めた紅白の餅を楮の木の枝に飾る「ならせ餅」など地元の正月行事に触れることもできました。

お味噌作り 1月13日(土) 参加者：約70名

達人たちが畑に種をまき、みんなで草取りをして、ひとつひとつ選別した大豆がいよいよお味噌になります。指導してくださる小倉味噌店的小倉さんも太鼓判の立派な大豆です。丸1日大なべて煮込んだ大豆を、みんなの手でつぶしていきます。でも、子供たちにとっては楽しい粘土遊び。お団子を作ったり、トンネルを掘ったり、塩と、NEC米で作った麹を混ぜ合わせて、みんなで分けて持ち帰りました。時々まで夏まで気長に待ちます。秋のイベントでも美味しい味噌汁が味わえることでしょう。

新酒蔵出し 3月10日(土) 晴れのちうす曇り 参加者：130名（平均気温8.4、平均風速0.8m/s）

早朝からとても良い天気となり午前のイベントは酒蔵コース(酒蔵見学・試飲会・ラベル貼り)と谷津田コース(竹細工・リッツオウ作り・谷津田散策)と盛り沢山の内容でした。新酒「愛酩で笑呼」の瓶にケナフ紙のラベルを貼ったり、小冊子とカバーのひもを通したり、まさしく手作りのお酒となりました。谷津田での昼食後、谷津田周辺の生物調査、リッツオウ作り、落ち葉掻き、ラベル貼りを行い、都市センターではイベント写真などを展示し田んぼ作りの1年間を振り返りました。イベント3回以上参加したの方々には新酒「愛酩で笑呼」やルーベをお土産に持ち帰って頂き、本年度最後のイベントに相応しく大いに盛り上がりました。

田植え

田んぼの名前
A：A田の東(エデンの東田中)
B：ドジョウくん田んぼ
C：穢(イナ)パウワウ
D：やればでき田
E：エコ田
F：蛭(ホタル)の舞
G：ヨシノボりくん田んぼ
H：東田中ほまれ
I：愛酩田(あいてい田)
J：田つ丁(たつじん)

草取り

稲刈り

脱穀

酒仕込み

新酒

お酒には「愛酩で笑呼(あいていでえこ)」という銘をつけています。これは、NEC環境経営の基本方針である「IT、で、エコ」と、「お酒を楽しむ(酩を愛し)、穢(笑)を呼び込む」との意を重ねて、本活動の本質を表そうと意図したものです。

2006年度のお酒(特別純米原酒)は「濃醇で辛口」タイプです。

アルコール度：18.3

日本酒度：+1

酸度：2.0

2006年度のお酒(特別純米原酒)は「濃醇で辛口」タイプです。

2006年度のお酒(特別純米原酒)は「濃醇で辛口」タイプです。

復元前の荒れた谷津田

田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

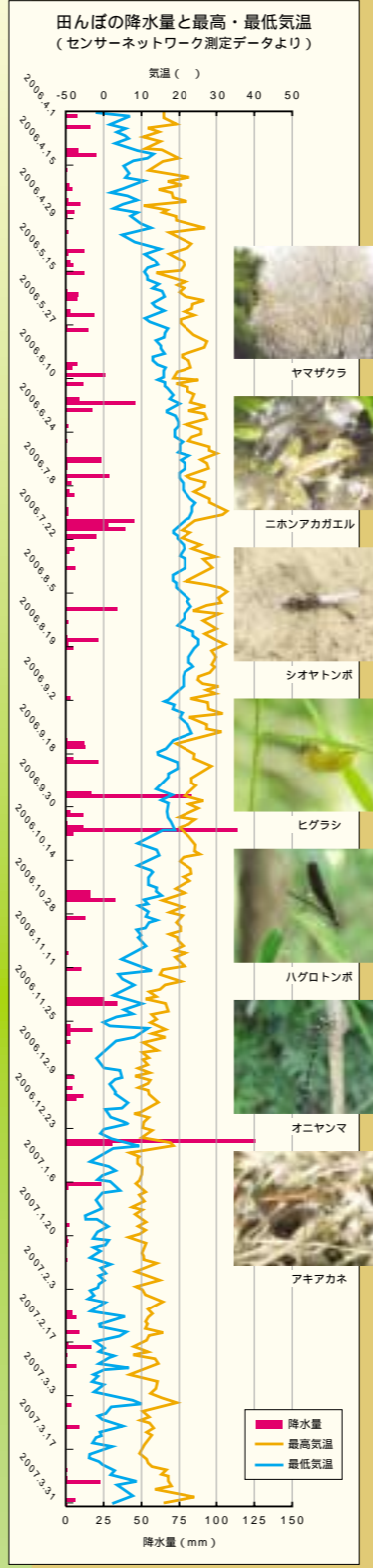
田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

田んぼの再生と生きものたち

二ホンアカガエルの卵塊

田んぼの降水量と最高・最低気温 (センサーネットワーク測定データより)



田んぼ歳時記

4月5日 ヤマザクラの花が咲く

4月17日 ショヤトンボ初現

5月14日 ホトギス初鳴き

5月20日 ジャコウアゲハ出現

5月29日 サトキマダラヒカゲ出現

6月23日 ヘイケボタル成虫確認

7月11日 アブラゼミ初鳴き

7月23日 ハグロンボ出現

8月5日 ヒグラシ初鳴き

8月12日 ツツクボウシ初鳴き

9月25日 アキアカネが山から下りてくる

9月25日 カケス初現

10月31日 アキアカネが産卵

11月8日 ツグミ初現

11月13日 オオアオイトトンボの産卵

11月23日 初霜

12月2日 初氷

12月13日 山王川にサケ遡上

1月7日 アカガエル出現

2月24日 アカガエルの産卵始まる

2月26日 ウグイス初鳴き

3月7日 ヒバリ初鳴き

3月10日 ヒキガエルの移動

3月14日 ヒキガエルの産卵始まる

3月27日 シュレーゲルアオガエルの初鳴き

(アサザ基金調べ)

2007 4月24日現在

上総掘りによる井戸掘りに挑戦!

田んぼに井戸を掘りました! 井戸掘りは田んぼプロジェクトが始まった当初からの願望でもあり、活動3年目である今年度、ついに田んぼに井戸が誕生しました! そして、その井戸掘りは地元の井戸掘り職人さんのご指導で、環境にも優しいといわれている「上総掘り」で行いました。

準備期間を含め8日間にかけて行われた井戸掘りには、延べ130名の方が参加し、人力のみで18メートルを掘りました。掘削7日目にして到達した、砂の層は水量が豊富で沢山の水がでました。でも少し鉄分の多いお水でした。現代では珍しいこの井戸掘りの様子は、いろいろなメディアからも注目を浴び、掘削作業期間中には現場からのラジオでの生放送も行われました。昔の人々がいろいろな知恵と工夫で考え出した「上総掘り」の体験を通じて、自然や資源の大切さ、そしてその恵みに感謝する気持ちを学ぶことのできた、貴重なイベントでした。

上総掘り:千葉県上総地方で考案され江戸時代後期より伝わる、井戸掘りの掘削技法。1995年に国指定重要有形民俗文化財に指定。又、2006年には技術そのものが国指定無形民俗文化財に指定されています。ホームページ http://www.nec.co.jp/eco/ja/2006_3/h01.html にて、井戸掘りの様子が動画でご覧頂けます。

ご指導いただいた三橋さんからのメッセージ 上総掘りの指導の依頼を受けたとき、私も約45年間やっていない事だったので、記憶をたどってできる限りの習得した技術を皆さんに見てもらえれば後世に伝わると考えました。参加する皆さんは初めての事でしょうから、私の弟子でもないし、毎日人も変わるし、どういふうに指導したら良いか、あれこれ工夫してみました。限られた時間の中で深さ18mで水が出ました。充分に水が出ることは間違いないと踏んでいましたが、最良の水質とはなりませんでした。皆さんも一生懸命まじめにやっていたのですが、なにが初めてのことなのでご苦労されたことでしょう。無事井戸も完成したので、皆さんと同じく喜びはひとしおでした。

参加者された方からのメッセージ 上総掘りによる井戸掘り、井戸掘り職人のご指導の元、やぐらの組み立てから掘削に至るまで体験しました。人力のみで、鉄管を上下させながら掘削するとう、先人の知恵と技術に驚くばかりです。「必ずこの手で水を出すのだ!」との意気込みで、運動不足の体にムチを打った4日間でした。残念ながら、予定の4日間で水を出すことは出来ませんでした。その3日後に「水が出た!」との連絡を受け大変感激しました。今後は、この自然の恵みを大切に生かしていきたいと思います。

達人たちの活躍

「もっと米作りや酒作りを学びたい!」イベントに参加するだけでは物足りなくなった常連の方々のために、今年度から「達人コース」をスタートさせました。年間約20回(今年は19回)の活動で、苗作りや田起こしから始める一連の米作りや大豆作りはもちろんのこと、堆肥作り、炭焼き、キノコの原木作り、一日蔵人まで、体を使って学ぶことができました。最初は少なかった達人仲間も、どんどん増えていきました。イベントと違って作業が中心なので、「疲れるなあ」と思いながらも、毎回みんな笑顔で集まってきます。もうすぐ、達人コースを卒業したたくさんの方、「師範」達が、活動の中心になってくれることでしょう。

達人たちの声

安全・安心な水に興味を持っていた私は、昨年7月に達人コースに登録しました。この環境ボランティア活動は週末が主ですが、3月までの間に谷津田に16回足を運びました。上野駅8時40分発に乗車。土浦に近づくと、休耕田の多さが目に入り、環境への意識を高めるつもりが、日本の農業の現状を感じ寂しくなっていました。達人コースでの無農薬作業は、現代社会で楽なことに慣れた体には容易ではないことを実感。田んぼ(草取り)、稲刈り、脱穀)、畑(大豆種まき、収穫)、井戸掘り(上総掘り)、竹炭焼き、酒造り、小屋作りなどなど。色々な事を経験の中、苦もあれば楽もありました。夏場の炎天下での辛い根気のいる作業につくほど考え深い事が多くありました。そういう中、最近、あまり目にしないトンボやメダカが行きかうのを見て、将来をにうす子供たちの為に私達は環境を守らなければならない。そして美味しい水を口にしたいと。

草取りという作業は、どうして、あんなに熱中してしまうのでしょうか? 気をつけないと、暑さでふらふらになります。畑では、大人も子供も教えて頂かないと、どの草を抜いてよいのか? 抜けないのか? 本当に担当がつかみません。手押しの中耕機(土を耕す機具)も利用しましたが、先人の知恵には脱帽致します。ガーコ(足踏み式脱穀機)に引き続き、また子供の頭の中に、昭和初期の農機具がインプットされたことでしょう。(これは、現在の農機では使わないのよ! 娘。)草取りの後は、子供はザリガニ「釣り」、それ以上に大人はエキサイトしてザリガニを「捕獲」しました。そして、夕食時には美味しく頂きました!

ザリガニレシピ(フィリピン料理)
噂のような話ですが NEC 田んぼのザリガニは、泥を吐かせなくても泥臭さはありません。捕ったその日に料理可能です! あまりに元気なのでザリガニを日本酒で酔わせましよう。(お酒がもったいないって? お鍋からザリガニが出てきますよ!) 酔ったザリガニを5分ほど茹でます。(茶色のザリガニは真赤に!) 茹でたザリガニを、バターと沢山のニンニクでさっと炒めます。(ここで、我慢をするのが大変です。)皮をむき、それを、醤油とお酢に、たっぷりみじん切りニンニクを加えたソースで頂きます。味はエビ・・・というより、伊勢エビに似ています。60匹くらいいす。大人4人+子供2人ですぐに食べ終わってしまします! 田んぼで巨大ザリガニの養殖(食用)を行いたいくらいです!

稲穂が頭をたれた9月に、収穫した稲を束ねるリッツオウ作りに参加しました。黄金色の田んぼを眺めながら7人の達人が昨年収穫した稲のわらを使って、手のひらで擦り合せながら黙々と800本を作り上げました。次は、稲を干すオダ掛けの竹を束ねる縄を昭和初期の縄ない機で編みました。参加を始めて3年目の娘が足踏み式の機械を器用に操り、リール1本の縄を編み上げました。田んぼ行くか? と言うと、行くという娘ですが、いつまで一緒に付いて来るのか? 田んぼプロジェクトの意義を何となく理解してくれているとは思いますが、ずっとこの景色、この体験を覚えていて欲しいです。

炭焼きは田んぼ近隣の竹林の間伐を兼ねて切り出して使ったオダやオダ棟が傷んで廃棄となることから、ドラム缶を利用した窯で作りました。出来上がった竹炭と竹酢液はイベントで使用したり、参加者にも配布しました。堆肥は田んぼや畑で農薬や化学肥料を使わないため、刈り草や藁を発酵させて作っています。炭焼きや堆肥管理のようなことから、竹や藁や米糠など田畑や竹林からの自然の生産物を有効利用して循環させることで、何事も谷津田の再生につながっているのだと感じられました。また、子供も自分も都会育ちで自然に触れる機会がほとんどないため、普段できない、いろいろな作業を通じて自然を体感しながら家族で楽しむことができている。

一日蔵人に参加し、「洗米」と「最終工程の仕込み」を体験させて頂きましたが、実際に体験してみると予想以上の厳しさや難しさに悪戦苦闘...無実夢中で作業はこなしたものの、素人ゆえの不手際も少なからずありました。しかしながら、出来上がったお酒は「和蘭良酒」-「NEC田んぼ」に携わったすべての人々の和が良くお酒を醸しました。-そんな言葉の似合う、今まで一番美味しく素敵なお酒に仕上げ安心。ぜひ来年度もまた「一日蔵人」にチャレンジして、今年以上のお酒を仕込んでみたい。

NECとアサザ基金の協働について

NECでは、環境経営推進のためには全社員の環境意識向上が必須であるとの方針に基づき、レベルの高い活動を行っていたNPO法人アサザ基金殿との協働によるプロジェクトを 2003年度よりスタートさせました。活動に際して最も強く意識したのは「イーンパートナーとしての協働」ということでした。NECがアサザ基金の活動に単に寄付をするとか、逆にNECの意識啓発活動をアサザ基金に委託するといった一方的な活動形態ではなく、独自のスキルやノウハウをお互いに活かして新しい活動を創り出していきたいということです。このような基本方針を明確にするために、2003年9月に活動全般に関する両者間の合意書を締結しました。

協働の最初の成果として、NECが独自に開発中であった「ネットワークセンサー」を用いた環境モニタリングシステムのプロトタイプ構築とその試行が実施されました。併せて、各種展示会などにその成果を出展し、お客様の高い関心のもとに、現在ビジネス展開を図っております。

主課題である「全社員の環境意識啓発」については、アサザ基金殿が独自に計画されていた「谷津田の再生による水質浄化」事業を支援しながら「自然体験参加型の意識啓発プログラム」を実行することになりました。11月に初めて現地に脚を踏み入れた際には「こんなところがほんとうに田んぼにもどるのか?」という印象でしたが、翌年4月には水をたえた立派な田んぼが姿を現しました。10月には、当初、想像もできなかった黄金の田んぼに目をみはりました。その後、2年目、3年目を経てより活動の枠も広がり、大きな成果を生むプロジェクトとなりました。明確な目標と良い出逢いと巡り合わせの賜です。

NECグループに同様の活動が展開され浸透していく一つの事例として、本活動をさらに活性化していきます。

田んぼの再生と生きものたち

田んぼを荒れたままにしておくと、乾いていたり、水気があっても水面がなかつたりして、トンボもカエルも卵が産みにくくなっていました。田んぼを再生して最もよこんでいるのが、このトンボやカエルたちです。みなさんも田んぼに来るとたくさんのトンボとカエルに迎えられて、このことを実感されていると思います。

トンボの数を正確に数えるのはなかなか難しいのですが、カエルの卵の数はかなり正確に数えられます。早春に卵を産むアカガエルやヒキガエルは、今はどこでも卵を産む所が少なくなって、たいへんこまっています。やはり、北ノ入田んぼはカエルたちにもよるごばれているようです。(アサザ基金)

NEC田んぼのカエル卵塊数

	2005年春	2006年春	2007年春
二ホンアカガエル合計	2	71	423
アズマヒキガエル合計	1	5	12

2007 4月24日現在